

関西支部第 108 回技術講演会・LMAG 第 17 回現地講演会

2019/9/10 記録

Report of 108th Kansai Section Technical Lecture Meeting & 17th LMAG Kansai On-site Lecture

LMAG 関西 事務局

講演会の概要

講演者(Lecturer) : 海技大学校 奥田成幸 名誉教授
Shigeyuki Okuda, Professor Emeritus at Marine Technical College

講演題目(Title) : 船舶におけるレジリエント航法に向けてー航行情報の融合化ー
Nautical Information Fusion Toward Resilient Navigation
- In case of Marine RADAR and GNSS (AIS) -

新井康夫 海技大学校名誉教授
奥田成幸 海技大学校名誉教授
市川義文 海技大学校教授
新保雅俊 東海大学教授

日時(Date)

2019 年 9 月 10 日(火) 14:20 - 17:00

場所(Place)

海技大学校
〒659 - 0026
兵庫県芦屋市西蔵町 12 - 24

主催 (Organizer)

IEEE Kansai Section
IEEE Kansai Section Life Members Affinity Group

参加者

22 名
(IEEE 会員 15 名, 非会員 7 名)

講演者を含む。

プログラム (Program)

14:20 海技大学校本館ロビー集合

14:30 開会の挨拶

14:35 海技大学新井先生挨拶と施設紹介

14:45 施設見学

3 班に分かれて、操船シミュレータ／レーダ・ARPA ※シミュレータ／機関室
シミュレータの 3 施設を見学 (※ Automatic Radar Plotting Aids)

16:00 講演 「船舶におけるレジリエント航法に向けて－航行情報の融合化－」

16:45 質疑応答

16:55 閉会の挨拶

17:00 記念撮影

概要(Brief Report)

見学

操船シミュレータでは、明石海峡を通過するタンカーのブリッジからの風景が臨場感たっぷりに表示され、降雨時や夜間の状況も表現できることに一同感心した。

レーダ・ARPA シミュレータでは、伊豆大島近海の電子海図の操作を例として、自船周辺にいる他船の動きの複雑さを実感できた。

機関室シミュレータでは、動力機関の操作とシステムの反応、動作音のリアル感などを体験および体感できた。

いずれのシミュレータも非常によくできており、国内の資格取得者だけでなく、海外の教育指導者の研修にも活用しているとのことであった。

講演

自船のレーダによる他船の相対位置情報(ARPA)と、他船からの船舶位置情報 (AIS※)を如何に組み合わせる精度よく相互の位置関係を把握し、安全航法に導くかが説明された。

(※ Automatic Identification System ; 船舶自動識別装置)

他船からの AIS 情報は、マスト部分の位置や船舶の速度、大きさ情報も含んでいる。一方、探知能力に優れるレーダの情報は、橋梁等の構造物による多重反射の影響を受けていることもある。

両方の情報をうまく組み合わせる使うことが求められるが、すれ違いや追い越しなどの際は、他船との相対位置の変化により、組み合わせるための両情報の対応付けが難しくなることもある。

写真(Photo)



施設見学 操船シミュレータ



講演会場



集合写真



懇親会の様子

海技大学校からの2名の参加者を交えて10名で芦屋駅前にて歓談の時を持った。

以上